

商店街での楽しい思い出づくり

～商店街イベントを通じた郷土愛の醸成～

産業政策課

1 はじめに

桐生市では、「まちの顔」とも言える中心商店街の活性化に向けて、にぎわい創出や魅力の向上等に繋がる取組みを推進しており、商店街団体等が取り組む商店街を舞台としたイベント開催についても積極的に支援している。こうしたイベントは、来場者に商店街の魅力を感じてもらい、継続的に商店街に訪れてもらえる関係づくりが大きな目的だが、商店街関係者が重視する一つの目的は、「子ども達に商店街での楽しい思い出を作ってもらおう」こと。イベントを通じて、桐生の未来を担う子ども達に、「商店街は楽しい場所」という思い出を作ってもらい、商店街に親しみを持ちながら郷土愛を深めてもらいたいという熱い想いが感じられる。こうした商店街の熱い想いが詰まった活性化イベントを紹介したい。

2 概要

本年度に桐生市が支援し、商店街振興組合が主催したイベントとしては、末広町商店街振興組合と中央商店街振興組合が2回ずつ、計4回のイベントが開催された。各イベントとも、子ども達が楽しめる、趣向を凝らした催しが多数用意されており、市内外から集まった多くの子ども達やその家族などが、商店街関係者とも交流しながら長時間滞在することで、商店街には賑わいと活気がもたらされていた。各イベントの様子は、以下のとおり。

3 活動の様子

(1) 夏に雪とあそぼう

主 催：桐生市末広町商店街振興組合

実施日：7月23日（土）

真夏の商店街に雪を降らせ、暑さを忘れて雪遊びを楽しんでもらうイベント。商店街の駐車場内に、スノーマシンで雪原が作られ、子ども達は雪合戦、かまくら、雪だるま等で楽しんだ。また、気温当てクイズや雪中宝探しゲーム、スイカ割りなども実施され、割れたスイカは、子ども達はもちろん、その家族にも無料でふるまわれた。

・平成28年度来場者数

約1,200名（大人700名、小人500名）



【真夏の暑さも忘れて大はしゃぎ】

(2) 吹奏楽まちなかコンサート

主 催：桐生中央商店街振興組合

実施日：9月10日（土）

「演」「食」「遊」をテーマに、商店街近隣の小中学校及び高等学校の金管バンド、吹奏楽部10団体（小学校3校、中学校2校、高校5校）が、商店街中心部のジョイタウン広場で日頃の練習の成果を発表した。

商店街には一日中音楽が鳴り響き、多くの来訪者が音楽を中心に商店街で楽しい時間を過ごした。

・平成28年度発表者数 約200名、来場者数 約700名



【青空の下、日頃の練習成果を発表】

(3) 第10回 防犯防災 G-FIVEロード 歩行者天国

主 催：桐生市末広町商店街振興組合

実施日：10月2日（日）

警察、消防、各種団体の協力のもと、末広町通りを歩行者天国にして実施された大規模イベント。各参加団体がイベントブースを展開し、多くの来訪者が商店街での一日を楽しんだ。10回目を迎えた本イベントは、回を重ねるごとに来訪者が増加しており、桐生市の秋の一大イベントとして定着してきている。

本年度のイベント内容としては、県道中央にイベントステージを設置し、10組のサークルやグループがダンスや歌などを披露したほか、G-FIVEイベント、消防車両・警察車両の展示試乗、ふわふわドーム等の遊び場、ウッドカーチャンピオン大会、飲食物販エリアなど、様々な催しで大いに賑わった。

また、第10回記念行事として「末広ホコ天ピック」を開催。縄跳、バトミントンシャトル投げ、バランスピンポンの3競技を5人1組で競い、1番の子供には金メダルと地元産ぶどうがプレゼントされた。

・平成28年度来場者数 約16,000名



【ダンス発表には大勢の見学者が集まった】



【末広ホコ天ピックで金メダルを目差す】

(4) 仮装DEおいでよ桐生ハロウィン

主 催：桐生中央商店街振興組合

実施日：10月30日

参加した子供たちは、それぞれのハロウィンコスチュームで商店街の参加約50店舗をめぐり、「トリック・オア・トリート」と元気に挨拶。店主らからお菓子を受け取り、まちは笑顔に包まれた。

商店街中央のジョイタウン広場ではパフォーマンスコンテストが開かれ、子供はもちろん大人もステージに上がり一芸を披露した。

・平成28年度 子供参加者数 約700名、来場者数 約2,000名



【得意なパフォーマンスを披露する子供たち】

4 おわりに

かつて「織都」として栄えた街の繁栄を引き継ぎ、桐生市の中心商店街は今もなお、美味しい飲食物や付加価値の高い商品を扱う店舗が集積する、魅力ある商店街である。また、商店街は単なる商品・サービスの提供の場であることを超えて、地域の安心・安全や地域住民の交流、コミュニティの場など、地域生活の基盤としての様々な機能を担っている。

商店街を舞台とするイベントは、来訪者にこうした商店街の魅力や重要性等を知ってもらう絶好の機会でもあり、子ども達には是非、イベントを楽しみながら「商店街の素晴らしさ」に触れ、愛着を感じてもらいたい。商店街関係者は、桐生の未来を担う子ども達が、商店街に愛着を感じながら成長していくことが、将来の商店街活性化にも繋がっていくものと強く信じている。

市としても引き続き商店街組合等と連携を図り、商店街の魅力や素晴らしさを発信しうるイベント開催等を推進しながら、商店街に親しみを持つ子ども達を増やしていきたい。